

**（一社）福島県医薬品配置協会主催
第28回中学生「家族の健康」作文コンクール表彰式開催される
県下57校から2369作品 厚労省等から来賓迎え
薬日新聞（11月27日 第4132号）より抜粋 （一社）日本置き薬協会**

（一社）福島県医薬品配置協会（佐久間喜重会長）は第28回福島県中学生「家族の健康」作文コンクールの表彰式を、11月8日午後1時から郡山市熱海町の郡山ユラックス熱海で開催した。このコンクールは、次代を担う中学生にとって一番身近な「家族の健康」について、健康であることの幸福、家族の大切さを考え、家族との絆を一層高めるとともに、健康衛生に対する理解を深め、作文教育に役立てることを目的として、平成6年から継続しているもの。厚生労働省、福島県、福島県議会、福島県教育委員会、福島県くすりの週間実行委員会、福島県赤十字血液センター、福島県中学校長会、地元マスコミ、(株)薬日新聞社らが後援、福島県中学教育研究会が協力している。

佐久間会長は、後援の機関、団体に感謝し、応募の中から選ばれた入賞者を祝福。「家族の健康」を題材にした作文コンクールを今後とも続けていく意向を語り、先用後利による置き薬の仕事への理解とともに、一層の支援協力を要請した。

来賓紹介に続いて表彰に移り、この日出席した入賞者14名に、各後援団体の臨席来賓等から賞状と記念品を授与。受賞者を代表して**厚生労働大臣賞の佐野光向さん**（会津若松市立第三中学3年）が「**祖父に教えてもらった健康**」、**福島県知事賞の森 風香さん**（いわき市立内郷第一中学2年）が「**持病から見直す生活習慣病**」の受賞作が朗読された。

安藤公一 厚労省医政局医薬産業振興・医療情報企画課長の祝辞（代読）

健康に対する知識の豊富さ、意識の高さにとても感心し、大臣賞受賞作品では自宅療養をされていた祖父の健康を想う家族の努力と葛藤が具体的に描かれており、病気に対する理解、療養生活や食事を中心とした祖父の健康管理への家族の取組についての深い洞察が感じられた。このほかにも寄せられた多くの作品に、家族の絆の大切さ、自分の健康を願う家族に対する感謝の気持ちが書かれており、深く感銘を受けた。この作文コンクールを通じ、健康であることの素晴らしさ、家族の絆の大切さなどを改めて認識したことは、皆さんにとって今後の生活の中で必ず意義あるものとなっていくと考える。健康であることは全ての人の願い。この作文コンクールが改めて健康の有難さ、健康であることの社会的な意義について家族で話し合うきっかけとなれば幸いと思う。

國分守福島県保健福祉部長の祝辞（代読）

数多くに優れた作品の中から選ばれ、受賞された皆さんの作品の中には、家族やご自身が経験した病気によって改めて健康の大切さを見直したものが多くあり、大事な人たちの健康に対する思いがとても強く伝わってきた。このコンクールをきっかけに、より多くの中学生の健康づくりに対する意識を高めることが出来れば、健康長寿県を目指し様々な施策を展開している件としても、大変有意義なこと。「家族の健康」をテーマとしているこのコンクールは、すでに四半世紀以上にわたり、中学生の視点から健康の大切さを訴えてきた本県の貴重な財産であり、今後とも県民の健康づくりにご理解ご協力を賜るようお願いしたい。

配置薬、置き薬の礎は家庭（特に世帯当り員数）にあることは、本紙第182号で明らかにした。健康、疾病に伴う家族関係を中学生の視点から捉えた、業界ならではの秀逸な事業である。なお同会HPには第16回から27回までの受賞作品が掲載されている。